



池田 雅信

IKEDA Masanobu

エコトラック
社長

企業活動自体が環境対策になる 会社をめざして



当社は社名のとおり、エコカーとは切り離せない運送会社です。株式会社ネットワークという運送会社を立ち上げて間もない20年ほど前、娘がひどいアトピー性皮膚炎で、家内に「運送会社はいつやめるの」と言っていたころ、地元の市民祭りで天然ガス車の展示があり、排ガスも臭いもゼロであることに衝撃を受けました。偶然、翌月のトラック協会の会報誌に、補助金つきの天然ガス車購入の募集記事があり、2台購入しました。使ってみると、天然ガス車は性能面でも普通のディーゼル車と遜色はありません。そこで、「運送会社も環境に配慮すべき時代が来る」という信念と、天然ガス車の性能に対する同業者の誤解を解きたいという思いから、天然ガス車だけの運送会社を思い切って設立しました。

そこからは、一貫して天然ガス車の普及に努めました。北海道から鹿児島まで、全国の小中学校を自費でまわり、排ガスが出ないことを実験で体感してもらい、「君たちの選択でこれから世の中が決まる」と環境への思いを訴えました。忙しくても、依頼が来れば絶対に断りませんでした。また、国のプロジェクトとして始まった大型エコカーの開発や運行実験などを国から引き継ぎ、自前で続けました。最初のころは、「うまくいくはずがない」といわれました。契約を解除されるといたしんどい思いも随分しました。でも、こうした活動を続いているうちに、だんだんと周りの見る目が変わってきて、役所の方も企業の方もみんなが応援してくれるようになったのです。大口顧客の倒産など、もう経営が立ちいかなくなるのではないかと思われるような危機にひんすると、不思議と応援してくれる方があらわれ、助けてくださいました。そうして、おかげさまで環境省と国土交通省の大臣賞を頂くまでになり、企業規模は決して大きくはないものの、設立以来20年、増収増益を続けることができています。

環境対策自体は、確かにもうけにはそのままつながらない

かもしれません。しかしながら、われわれは、利益を環境対策のために使うという考え方ではなく、自分たちの行動自体が環境対策になるような会社になりたいと思って取り組んできました。自分たちが頑張ることでエコカーの普及にもつながる、世の中の役に立っている会社は絶対世の中に生かされる、そう信じて、そこだけはプレずにやってきました。

私がこだわってきたことの一つは、会社の雰囲気を明るくすることです。それを乱す従業員がいれば、毅然とした対応をしてきました。それによって、仕事にも人材確保にもいい循環が生まれるからです。そうしていくうちに、当社の思いに共感した熱意のある若い人材が集まるようになりました。彼らは、自分がやらなければと一生懸命働いてくれます。若い女性ドライバーが多いのも当社の特徴です。彼女たちにも重い荷物を持たせ、長距離に乗ってもらっています。ですから、当社では給料をはじめすべて男女同じ基準にしています。また、若い社員が出身校の先生に雰囲気の良い会社だと連絡してくれて、先生が生徒を紹介してくれることもあります。人手不足の時代にありがたいことです。

2017年度より地球環境・エネルギー委員会の副委員長を務めています。長くエコカーの普及に取り組んでいた関係で自動車公害関係やエンジンの排ガスにも詳しくなりましたし、新エネルギー・産業技術総合開発機構(NEDO)の技術委員も長年務めっていました。そうした経験を生かして、多少はお役に立てるのかなと思っています。

私は門真生まれの門真育ち、根っからの関西人で、大阪や関西には強い愛着があります。東京に行く機会が増えたこともあってか、関西がちょっと落ち込んで地位も低下してきた、と感じることが増え、気になっているところです。2025年の大阪・関西万博に向かって、関西を元気にするためなら、できることは何でも協力していきたいと思っています。（談）